

法人	社会福祉法人光朔会 オリμπピア	報告者	常務理事 山口 幸
<b>基本方針</b>			
イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会を実現する。			
<b>運営方針</b>			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しい介護への転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
<b>総括</b>			
<p>23年目を迎えた2018年度は、社会福祉法人光朔会オリμπピアにとって、重要な位置づけとなる1年である。</p> <p>2018年4月に実施された介護報酬・診療報酬の同時改定によるダメージは、高齢者事業部門にとって、決して小さくはなかった。また、日本全体に及ぶ人材不足の波は、光朔会の各施設の運営に大きな影響を与えている。</p> <p>この事態を打開すべく、光朔会公式ホームページおよびFacebook・Instagram・TwitterなどのSNSを活用した情報発信を強化し、ひとりでも多くの方にオリμπピアの取り組みや魅力を伝える努力を行っている。また、人材確保においては、昨年度より稼働しているオリμπピアリクルートサイトの活用や、スタッフによるリファラル採用への取り組みを強化し、オリμπピアで働きたいと願う人材の発掘に努めている。さらに、現在働いているスタッフひとりひとりの力を最大限に引き出すために、法人を横断した新たなプロジェクトを複数立ち上げ、日々チャレンジを続けることによって更なる成長を目指す。これらの取り組みを通じて、オリμπピアの目指す「すべての人がその人らしく希望を持って輝くことができる」ノーマライゼーション社会の実現に近づけるよう、次年度も努力を続けたい。</p>			
<b>運営評価</b>			
<p>1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] :本年度、高齢者事業・保育事業・社会事業の各部門の働きを一層充実させることができた。これにより「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させた。</p> <p>2. 新しい介護への転換 [小規模] :ユニットケア、グループホームケアを徹底し、入居者・利用者おひとりおひとりがこれまで通り誇りを持った暮らしを安心して続けていただくことを可能にするケアの提供を行うことができた。</p> <p>3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] :オリμπピア福祉塾講座、認知症高齢者や発達障害への理解を深めるための講演会、Salon de l'Olympiaなどを開催することにより、地域福祉の啓発に貢献した。</p> <p>4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] :日本聖公会・YMCA・大阪大学・神戸国際大学・RC行政・社会福祉協議会・医師会などの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげることができた。</p> <p>5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] :各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深めた。</p> <p>6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] :内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティア資質の向上に努めた。また、実習生を積極的に受け入れることにより、社会的貢献を果たすことができた。</p> <p>7. 海外との交流 [国際活動] :リンネ大学(スウェーデン)との協働によりスウェーデン研修を実施する。また香港・ベトナムなどのアジアの国々との連携を密にし、これからの世界の福祉の情勢を分析する機会を持つことができた。</p> <p>8. 健全な財政運営 [健全財政] :収入の増加、支出の見直しに取り組んだが、不十分な結果となってしまった。</p>			

施設	特別養護老人ホームオリンピア	報告者	施設長 落 昌之
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 人材の確保及び育成 4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す。		
総括			
<p>今年度は長期利用者の退所が続き、入所検討委員会等にて順位決定していたが予想より多くあったため、新規入所者の決定が間に合わず収入面で厳しい状況となっている。年後半に退去が多くショートステイ空床利用を行っても入院者等も多く、新規利用者を多く獲得しても十分にベッドを埋める事が難しい状況であった。支出に関しては派遣人件費の支出が増大するも、人件費は予算を下まわる等、年度予算よりは削減できている。通所介護についても経費の削減はできているが、収入が減少している。居宅・あんしんすこやかセンターは元々、収益が見込める事業ではなく赤字事業と世間では周知されているが、中央では大幅な収支差ではなく健闘している。来期は収入面の強化を図り、年度予算を達成していく。</p>			
事業評価			
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:利用者のニーズをくみ取り、柔軟な対応に努めきめ細やかなサービス提供に努めた。健康管理に関しては、早期の対応を心がけていたが、入院者や退去者が多くなった事については、日頃から利用者のちょっとした変化を見逃している事もあり、外部の研修等に積極的に参加し、各スタッフに対して医療面の知識の底上げを図って行きたい。</p> <p>2. 財政基盤の確立:経費についてはスタッフ個々が意識を持ち、削減に対して努力を行った。結果、拠点ベースでも支出の削減が図れている。収入に関しては、特養の利用者が過去。例を見ないほどの待機者となり、収入が減少した。通所介護も収入を落としておりこれまで以上、営業面での工夫が必要である。</p> <p>3. 人材の確保及び育成:人材の確保については介護業界全体で、雇用状況が悪くなっているが、中央でも同じ状況に陥っており、派遣に頼らざるを得ない状態になっている。職場環境等の改善を図り、働きやすい環境整備を進める中で、職員の新規採用に結び付けていく。</p>			
研修	<p>[内部]虐待防止研修会・身体拘束廃止研修会・感染症対策研修会・事故防止研修会 [外部研修]感染症対策研修会・看取りの栄養ケア研修・防災(備蓄食)研修 水防法・土砂災害防止法による避難計画確保研修・特定医療行為従事者研修</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>社会福祉士実習(大原学園)・介護福祉士実習(大原学園)・介護等体験 栄養士実習(松蔭大学・武庫川女子短期大学等)</p>		
行事	<p>特養花見・デイ花見・オリンピア夏祭り(特養・デイ)・保育園児との交流会(オリンピア認定こども園 ニコラス保育園等)・デイ遠足(年2回)・音楽療法(毎週土曜日)・クリスマス会(特養・デイ) 忘年会(デイ)</p>		
取得資格	<p>特定医療行為従事者(2名)</p>		

# 事業報告

2018年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	落 昌之
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 健全な施設運営 4. 専門性の高い人材育成と人材確保				
事業評価					
1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:施設での生活が豊かで楽しみのある時間を過ごして頂けるように心がけている。季節等の行事については、少し盛り上がり欠けているような状況も若干みられたのでスタッフに対して何が大事なのかを考えてもらい、次年度は趣向を凝らした行事を行っていく。					
2. 財政基盤の確立:退去者が多く出してしまった1年であった。インフルエンザ等の感染症も出さず、健康管理を十分に行っていたが、入院者が立て続けにあり、新規利用者が退所者に追いついていない状況であった。これまではロングショートにて3名待機をしてもらっている状況であったが、それを上回る状況で入院、退去者が合った状態。新規ショートも相当数獲得するも追いつかない状況が続いた。次年度はショートベッドを十分に有効利用し、ロングショートの待機者を5~6名獲得していく。					
3. 健全な施設運営:介護保険制度や老人福祉法等の制度の中で運営を行っており、利用者のニーズに答えられるようサービスプランを作成していく。					
4. 専門性の高い人材育成と人材の確保:研修等を実施しスタッフのスキルアップを図った。					

社会福祉法人光朔会

# 事業報告

2018年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	谷口 裕亮
事業目標	1. 年間利用者数7,630人(29.8人/日)を目指す 2. 人員を確保し、質の高いサービス提供に努める 3. 関係各機関との連絡を密にし、オリンピアの信頼度を上げる				
事業評価					
1. 年間利用者数7,630人(29.8人/日)を目指す:年間利用者数は6,764人(26.5人/日)と、目標値を大きく下回り目標利用者数を達成することが出来なかった。夏頃より、利用者の高齢化や重度化に伴い、入院や施設入所などで退所される方が相次ぎ、それを上回る新規利用者を獲得出来なかった事が主な原因であると思われる。サービスが合わず利用中止される方はおらず、利用されている方は、利用回数を「増やしたい」と希望されたり、居心地が良いという意見をいただいております、ご利用者様やご家族様、他事業所から信頼していただけている。					
2. 人員を確保し、質の高いサービス提供に努める:送迎ドライバーや介護スタッフの確保に、コストカットのとの両面を鑑み、シフトを回すことは大変であったが安全に楽しく過ごして頂く為に、しっかり気配りを意識して取り組んできた。また、イベントにも力を入れて、ご利用者様の要望に応え満足頂けた。					
3. 関係各機関との連絡を密にし、オリンピアの信頼度を上げる:ご利用者様、ご家族様、ケアマネジャー等他事業所の方と連絡を密に持つ事でオリンピアへの信頼度を高める事が出来た。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア	部門	居宅介護支援事業所	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 質の高い居宅介護支援 3. 地域、他事業所との連携 4. 介護支援専門員の資質向上 5. 認定調査員の資質向上				
事業評価	<p>1. 財政基盤の確立:要介護者プラン件数年間1209件、要支援者プラン件数年間146件となった。 介護支援専門員が増えた事で要介護者プラン件数が年間150件程度増えている。</p> <p>2. 質の高い居宅介護支援:月1回は自宅訪問し、状況把握、モニタリングを実施し、住み慣れた地域で生活できるように支援を行った。介護保険の枠にとらわれず、サービス調整を行った。</p> <p>3. 地域、他事業所との連携:圏域のあんしんすこやかセンターからの依頼は連携を取りながら対応した。 他事業所と連携を図る事でスムーズなサービス調整を行う事ができた。困難ケースも連携を取る事で対応できた。</p> <p>4. 介護支援専門員の資質向上:主任介護支援専門員の更新研修などに参加。研修で得た知識は事業所内で共有した。</p> <p>5. 認定調査員の資質向上:年間485件の認定調査を行った。認定有効期間が3年になった事で調査数が減ってきている。調査員現任研修やe-ラーニングの活用を行った。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア	部門	地域包括	報告者	太田 直樹
事業目標	1. 高齢者やその家族から信頼され安心して相談のできる窓口として認知・評価される。 2. 高齢者と地域をつなげ、安心して住むことのできる地域づくりを支援する。				
事業評価	<p>1. 給食会や喫茶会、夏祭りやバザー、防災訓練等の地域行事へ積極的参加及び支援をした。 その際、高齢者介護相談や権利擁護などの情報発信、フレイル予防啓発等をおこなった。 また、毎月、各腫事業所約130カ所を訪問し、資料配付や顔の見える関係づくりを通して、センター周知を継続した。</p> <p>2. 地域ケア会議を平成30年6月、12月と平成31年2月に開催し、地域課題の抽出や認知症高齢者の理解とその支援についての意見交換をすることができた。また、宮本地区で 認知症高齢者の声かけ訓練を実施した。</p> <p>3. 各地区の民生委員やボランティアとの連絡協力をすすめ、高齢者介護に関する勉強会をおこなったり 認知症キッズサポーター養成講座の開催協力をしていただいたりした。</p> <p>4. 地域支援のための神戸市の研修やケアマネジメント作成や高齢者支援を学ぶ研修に参加した。 また、困難事例や虐待防止、後任人制度理解のための勉強会を地区民児協や地区支援者とともに理解する勉強会を開催した。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア呉	部門	居宅介護支援事業所	報告者	栗田 実
事業目標	1. 事業の経営安定 2. 地域作りへの貢献				
事業評価	<p>1. 2018年3月より前任者の退職・7月の西日本豪雨の影響により休止していた呉居宅であるが、2019年1月より事業再開をすることができた。ひとまずは早急に居宅介護支援における利用者を定員(要介護換算40名程度)迄確保をすべく、営業活動に邁進しているが、実際の所は4月から地元地域包括支援センターの紹介にて16名の要支援利用者(要介護換算8名程度)の利用者獲得に留まっている。教会や元幼稚園舎を活用した保険外収入の道も、当初予定していた青空市の協賛企業が廃業したり、教会との調整が不調に終わり、目処が立っていない。教会の方も青空市の協賛企業を探す等動いているので、当事業所としても積極的に協力し、少しでも収益を上げられるよう努めて行きたい。そして何よりも本業の利用者の獲得を急ぎたい。</p> <p>2. 現在呉市は他市と比較しても急激に高齢化率と単独世帯数の増加の一方で、人口全体は減少の一途を辿っている。要介護・要支援者の独居高齢者も増えてはいるが、人口に比較して医療施設や介護施設が充実しており、利用者・家族の施設入所志向も強く、在宅事業所はどこも利用者獲得に苦しんでいる現状がある。呉市としても在宅の利用者を出来るだけ地域で見たい意向がある。行政と協力し地域作りに貢献したい。</p>				

施設	グループホームオリンピア灘	報告者	管理者 長谷 順二
事業目標	1. 利用者の生活の質の向上 2. 地域の認知症ケアの拠点として地域の交流 3. 職員の資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践 4. 財政基盤の確立		
総括	<p>16年目を迎えたオリンピア灘は、地域の認知症ケアの拠点としてグループホーム事業を行うだけでなく、地域を対象とした認知症講演会などを開催した。「生活の主人公は利用者である」というオリンピアの理念を実践するために、利用者の「その人らしさ」を大切に生活のお手伝いをスタッフひとりひとりがさせていただいた。スタッフが多種多様な研修で学びを行い、ケアの実践において学びを反映させることを継続してきた。グループホームと認知症対応型デイサービスの両輪が、地域での認知症ケアにおける拠点へと成長を遂げる原動力となり、法人から地域へと、オリンピアで行われるケアがサポートを必要とする全ての方へ届くように邁進してきた1年となった。</p>		
事業評価	<p>1. 利用者の生活の質の向上:利用者おひとりおひとりがその人らしく生活できるお手伝いをオリンピアの理念、3つの約束を元にして努めてきた。日頃から入居者の声に耳を傾け、グループホームに入所したからこそ、諦めかけていたことを再び取り戻すお手伝いを目標として取り組むことができた。</p> <p>2. 地域の認知症ケアの拠点としての地域交流:地域の認知症ケアの拠点として認知していただくために、グループホームによる地域交流だけでなく、山口常務理事による地域に向けての認知症講演会や、認知症対応型デイサービスにより、待つだけでなく、啓発活動を継続して続けることができた。</p> <p>3. 職員の資質向上:オリンピアの理念を法人トップである山口理事長から各スタッフへと研修が行われ、目標や使命を確認するだけでなく、誤ったケアを行わないための人間としての成長を遂げた。</p> <p>4. 財政基盤の確立:収入の安定をはかるため、デイサービスの利用日を見直し、介護報酬の安定した確保を目指した。また、積極的に人材への投資を行い、基盤強化を目指すこととなった。</p>		
研修	<p>[内部]新入職員トレーニング合宿・新入職員研修・新入職員OJT・若手リーダー育成研修・認知症ケア・感染症・介護予防・高齢者虐待防止・身体拘束防止・パーソンセンタードケア・認知症講演会</p> <p>[外部] 介護支援専門員従事者研修・救命講習会・コンプライアンス研修(神戸市主催)</p> <p>発達障害理解のための基礎と実践講座・認知症介護実践リーダー研修・認知症介護実践者研修</p>		
見学・実習	<p>[見学]居宅介護支援事業所、入居希望者の見学受け入れ・民生委員・</p> <p>デイサービス体験利用の実施・オリンピア住吉による清掃</p>		
ボランティア	<p>[実習]グリーンケア研修・トライアルウィーク・ワークキャンプ</p> <p>[ボランティア]オリンピア都こども園・オリンピア北保育園・ワーフチェロカロテット・畑プロジェクト</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・ご家族懇談会・ご家族懇親会・消防設備点検・第三者評価・オリンピア都こども園、神戸北保育園交流会・BBQ・Salon de l'Olympia Nada(チェロコンサート)・</p> <p>雛祭り・イースター・ハロウィン・クリスマス(礼拝・パーティー)</p> <p>外出(花見・飲食・ドライブ・初詣・沖縄・どうぶつ王国・美術館・お花見・コンサート)</p>		
取得資格			

## 事業報告

2018年度

施設	オリンピア灘	部門	グループホーム	報告者	長谷 順二
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の場の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				
事業評価					
<p>1. 入居者が主人公となる生活の場の構築:オリンピアの理念を実践し、入居者ひとりひとりの思い、意向を受け止めていくために、日々の関りから皆様へ耳を傾け、スタッフが個人でなく一つのチームとして課題解決に取り組んだ。思いが反映されたケアプランを基盤として、入居者がチャレンジしていける生活を目指した。</p> <p>2. 職員のスキルアップと育成:立場を超えた報告・連絡・相談の体制を築き、入居者のためのチームとしての構築を模索してきた。公募制度、人事考課によりモチベーションの向上、スキルにあったそれぞれの研修体制により、個人のスキルアップがチームのスキルアップとなるように協力をして取り組んできた。</p> <p>3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:山口常務理事による地域へ向けての認知症講演会では、地域の方やケアマネジャー等幅広参加していただいた。中だけでなく、外へと啓発活動を行うことで、グループホームへの入居希望や見学が増加し、オリンピア灘が地域の拠点としての活動を行うことができた。</p> <p>4. 財政基盤の確立:収入と支出のバランスをはかりつつ、人材雇用などの投資を行うため、安定した収入の確保を行い、収支差としての向上を目指した。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2018年度

施設	オリンピア灘	部門	デイサービス	報告者	長谷 順二
事業目標	1. サービスの質の向上 2. 財政基盤の確立				
事業評価					
<p>1. サービスの質の向上:共用型のデイサービスという特徴を最大限に発揮するため、デイサービス単体ではなく、グループホームとの共生を目指してきた。日々のお料理を中心とした生活だけでなく、行事やそれぞれの誕生日会では、サービスの垣根を感じない連帯感が生まれている。デイサービスが馴染みの場所となっており、これからの希望があれば、グループホームへの入居もスムーズなものとなると思われる。在宅サービスであることからケアマネジャーやご家族との報告・連絡・相談を密に行い、利用日以外の体調変化に、適切に対応していくための協働を行うことができた。</p> <p>2. 財政基盤の確立:今年度から利用日を週7から週5へと変更した。利用者のニーズに合わせたサービスの提供を行い、法人内の各デイサービスとの住み分けを考えながら利用者の獲得に努めた。デイサービスの連絡会に再び参加するようになり、情報収集に努めることにも力を入れた。灘区内で認知症対応型デイサービスは、数えるほどしかなく、営業上優位と思われる強みを広報へと生かすことができた。デイサービス単体での収益は小さなものであるが、グループホームと連動した付加価値を大きく生み出すことができた。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
総括			
<p>14周年を迎えた2018年度は、オリンピア兵庫にとって、大きな試練となる年度であった。本年度実施された介護報酬改定によるサービス単価の切り下げや、相次ぐ大規模施設のオープンによる利用者の獲得競争の激化により、各部門ともに苦戦を強いられる結果となった。しかしながら、恒例の沖縄旅行をはじめとする各地への旅行を成功させたほか、Salon de l'Olympiaや「夜カフェ」などのイベントには地域の方々に数多くお越しいただき、オリンピア兵庫のアイデンティティを再確認することができた。また、研究機関や民間企業との協働プロジェクトを立ち上げたことは、今後の地域包括ケアシステムの展開の中で、オリンピア兵庫が重要な役割を担うことに繋がるであろう。アクションが人と人を繋ぎ、地域を動かしていくことができるよう、さらにチャレンジを続けていきたい。</p>			
事業評価			
<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立：GH・SS・DS・HHの4部門が力を合わせるにより「通えて泊まれて家にも来てくれて、いざとなったら住むことができる」場として、その人らしい住み慣れた地域での生活を支えることに寄与した。</p> <p>2. 広報活動の強化：ホームページ、Facebook等を用いた従来の広報活動に加え、スタッフが自主的に連携し、ポスティング活動を展開するなど、ひとりひとりの持つ発信力を強化することができた。</p> <p>3. 財政基盤の確立：介護報酬改定による収入減に加え建物や備品の大規模な修繕等の支出増により、各部門とも苦戦を強いられる一年となったが、収入の改善および支出の見直しを実施し、次年度への備えができた。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦：神戸国際大学との共同研究、インフォコム株式会社との新商品開発協力など、外部団体との協働により、新たなチャレンジに向けて、様々な種を蒔くことができた年度であった。</p> <p>5. 人材の育成：従来の人材育成の取り組みに加え、スタッフによる自主的な勉強会の開催や、リーダークラスのスタッフの内部研修講師への登用など、新たな人材育成のステージに進むことができた年度であった。</p>			
研修	<p>[内部] 新入職員トレーニング合宿・新入職員研修・新入職員OJT・感染症・介護予防・高齢者虐待防止・身体拘束防止・パーソンセンタードケア・スウェーデン研修</p> <p>[外部] 食中毒・感染症予防講習会・AED使い方講習会・介護労働安定センター主催人材定着セミナー・発達障害理解のための基礎と実践講座・スキルアップ助成金研修・ユニットケアリーダー研修</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>介護等体験(53)・ミカエル兵庫幼稚園(40)・播磨福祉専門学校(32)・神戸医療福祉専門学校介護福祉科(10)・兵庫県職員(6)大阪大学人間科学部(1)・上智大学グリーンケア研究所(2) ・神戸リハビリテーション専門学校(4)トライやるウィーク(須佐野中学校2・吉田中学校2)・ラーンネット・グローバルスクール(3)・インターンシップ(大阪大学1・松蔭1・武庫川女子1)・ワークキャンプ(1)</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・花見・LIGHT IT UPBLUE・ご家族懇談会・須磨離宮公園・野球観戦 クリスマス礼拝・お餅つき・夜 Cafe・宝塚歌劇・豆まき・あぐろの湯・ひょうご五国ワールドフェスタ 笠松商店街ふれあい祭り・ルミナリエ・須磨水族園・Thanks沖縄・ANA/SNA・バスツアー 初詣・Salon de l'Olympia・南京町・舞子公園・ハーバーランド・マンドリンコンサート</p>		
取得資格	介護職員初任者研修(1)		



## 事業報告

2018年度

施設	オリンピック兵庫	部門	グループホーム	報告者	西塚 裕真
事業目標	1. ケア理念の遵守 2. 財政基盤の確立を図る 3. スタッフの資質向上				
事業評価					
1. ケア理念の遵守					
・パーソンセンタードケアの考えを基本とし、18名お一人お一人に合った生活を追求し、ケアにあたった。					
"ご利用者の声を形に"を意識し多くの企画を立案、実行出来た。					
・ご入居者個々の身体的変化や精神的な変化に対応し、その時々のご本人を理解しケアにあたった。					
2. 財政基盤の確立を図る					
・2018年度の年間稼働率97.5%以上を達成する事が出来た。カフェの売り上げは前年度からの増加し、240万を達成した。夜カフェ等のイベントの開催、地域の祭り、外部イベントへの出店の継続が出来、収入に繋がられた。					
3. スタッフの資質向上					
・研修の機会や会議への参加によって、スタッフのモチベーションの向上を保つことができた。					
・イベントの立案や、旅行などに参加し、経験を積むことが出来た。					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2018年度

施設	オリンピック兵庫	部門	ショートステイ	報告者	尾崎 真
事業目標	1. ショートステイの役割と今後 2. スタッフの資質向上 3. 地域協働				
事業評価					
1. ショートステイの役割と今後についてまずはオリンピックの理念と3つの約束の周知徹底に努めた。それらを守る為に部門として朝礼への参加を可能な限りで行い、また各ユニットのカンファレンスにおいても毎回第一の議題として挙げることで全スタッフへの浸透を図った。それらをスタッフの一人ひとりが理解することで日々のケアの質を高めるように行った。またケアネージャーからの緊急ショートへの依頼に対しても積極的に受けることで介護でお困りのご家庭に対して安心して頂ける環境づくりにも注力した。					
2. スタッフの資質向上に関しては個々の能力に合わせた指導方法を行った。特に新人スタッフに関しては身体、精神面のどちらにも決して無理のないように指導係と指導を受ける側のお互いが共通の目標を掲げ、ミエル化をすることで周りのスタッフらに対しても安心して指導を行えるように変えることが出来た。					
3. 地域協働に関しては積極的に地域活動に参画した。また地域に出るだけでなく地域の方々を施設の中にも巻き込んだイベントを行うことで大変な賑わいを見せることが出来た。そうすることで地域の輪が更に広がりを見せそれにより次年度により大きなイベントの企画、実施に結び付ける可能性を生み出すことにも成功した。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材育成の強化 4. 新たな保険外事業への挑戦				
事業評価	<p>1. 2018年度も前年度に引き続き入院者の多発傾向が継続し、年間19名の新規受入で補完したが予算値には至らなかった。2019年度へ向けては前年度に加え、さらに新規受入を行うことで90%の充足にまで回復しており低迷期脱出へ向けて大きく前進している。</p> <p>2. 地域密着型として運営推進会議の開催等によって地域との密着を行っている。加えて、地域向けのイベントにもデイ利用者が参加する等、地域との一体的な運用については、達成することが出来たと評価している。</p> <p>3. 他の事業所において受け入れ困難として、兵庫デイを利用することになったケースも、その後継続利用につなげることが出来る等、一定レベルのケア遂行能力は維持出来ている。また、派遣職員の直接雇用転換により全スタッフが有資格者となっている。</p> <p>4. 初任者研修事業を実施したが、収益事業として確立するに至っていない。法人内部のスタッフスキルアップ研修としては有効に活用されている。次年度には受講者増を目指して宣伝活動等も力を尽くしたい。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村 文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				
事業評価	<p>1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践：事業開始から5年が経過し、地域においてもオリンピアの訪問介護が定着してきていることを実感する。近隣の居宅介護事業所とのコミュニケーションも円滑に行えている。今後も地域での課題を一緒に取り組んでいける基盤作りをしていきたい。</p> <p>2. 他部門との連携強化：今年度は、他部門のご利用者がヘルパーを利用して下さるケースが増えた。スタッフ間のコミュニケーションもスムーズに取れ、早期の対応が出来た。</p> <p>3. ヘルパーの養成：今年度はじめに、未経験の新しいヘルパーを1名スタッフとして迎えた。介護は初めてということだったが、利用者との関係作りも良好で問題なくサービスを実施できている。他のベテランヘルパーの助けもあり、お互いに刺激となって良いチームワークが醸成できている。</p> <p>4. 保険外サービスの具体化：軽度者へのサービス削減が進む中、掃除・買い物といったニーズは依然として高い。介護保険でなくてもお願いしたいという依頼もあり、今後も柔軟な対応が求められる。一方で専門性の高いヘルパーがどの程度そういったニーズへ対応すべきか検討が必要である。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしての資質向上 4. オリンピアの理念の体現 5. 利用者、家族の尊重				
事業評価	<p>1. 財政基盤の確立:2018年度の収入予算を達成し、法人の財政基盤の確立に貢献することができた。また、法人内の各サービス利用のへの導入も行いました。</p> <p>2. 地域、他事業所との連携強化:圏域の浜山あんしんすこやかセンター主催の「ハートネット地域会議」に年間を通して出席を継続しました。その中で地域住民、医師、薬局、介護医療サポートセンターなど地域の関係機関との顔の見える関係づくりを積極的に行いました。</p> <p>3. ケアマネジャーとしての資質向上:年間を通して、兵庫区のケアマネジャー連絡会主催の勉強会に出席を継続しました。多くの知識や情報を得たことで、結果的に担当ご利用者に対して色々な提案を行うことができました。</p> <p>4. オリンピアの理念の体現:ご利用者、ご家族のニーズを聞き、どのように今後の生活を送っていききたいのかを法人の理念を基にそのことを意識し体現しながら居宅介護支援の業務を遂行しました。</p> <p>5. 利用者、家族の尊重:ご利用者、ご家族の希望を聞き、その希望が出来る限り実現していけるように随時相談、面談を行いながら関わらせて頂くことができました。</p>				

施設	オリンピア都こども園	報告者	園長 三好 美佐子
事業目標	1. オリンピアの理念、都こども園の理念理解の徹底 2. 認定こども園教育・保育の充実 3. 地域子育て支援の充実 4. 教育・保育専門職としての資質向上 5. 関係団体との連携		
総括			
<p>2018年度は幼保連携型認定こども園に移行し3年目となる。保育認定ではない1号認定として入園する子どもたちが15名となり、1号認定子どもの定員に達した。地域の子育て世帯に選ばれる認定こども園として、子育て世帯に積極的に情報発信し、関わっていくことができた。また、灘区は待機児童の多い地域であり、待機児童解消のため、保育認定子どもを常に定員の120%を預かり貢献することができた。</p> <p>年々多様化する子育てニーズに敏感に反応し、それに応じた支援をおこない地域の子育て支援の拠点として役割を昨年以上に果たすことができた。そして、一人一人の子どもたちがその子らしく、心も身体も安定して過ごせる認定こども園となるよう、一人一人の子どもに全ての職員が関わっていく姿勢を大切にすることができた。</p>			
事業評価			
<p>1. 幼保連携型認定こども園としての事業展開：認定こども園への1号認定としての入園希望者が多く、オリンピア都こども園の教育・保育を評価いただけていると感じた。</p> <p>2. 認定こども園の教育・保育内容の充実：子どもたちが自分らしく安心してあそび込める環境作り、子どもたちが自分の欲求を満足できる活動として、運動あそび、ECC英語活動が大変充実してきている。</p> <p>3. 地域子育て支援の充実：一時保育利用の延べ人数は前年度を上回り、緊急を要する利用ニーズにすばやくていねいに細やかに対応することができた。子育てサロンOlympiaをはじめ体験保育、母親講座などの利用はリピーターも多く、口コミで評判が広がり、延べ利用者数は前年度を上回った</p> <p>4. 教育・保育専門職としての資質向上：一人ひとりの職員が課題・目標をもって保育にあたることができた。キャリアアップの研修を受け、職員への処遇改善の充実が図られ、職員の働きがいに繋がっている。</p> <p>5. 関係団体との連携：キリスト教保育連盟、聖公会保育連盟の研修・大会等に積極的に参画し理解を深めた。</p>			
研修	[内部]認定こども園教育・保育要領の理解・実践、子どもの人権学習、事例研究会、オリンピアの理念理解、接遇マナー [外部]新任職員研修、アレルギー対応、食育研修、赤ちゃん学講座、乳児保育、保護者支援、統合保育理解、感染症対応、リスクマネジメント研修、保育教育要領改訂ワーキンググループ、キリスト教保育連盟大会、聖公会保育連盟大会		
見学・実習	神戸松蔭女子学院大学管理栄養学科(2)、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科(2)		
ボランティア	頌栄短期大学(2)・海星女子学院大学(2) ワークキャンプ(中学生3名、高校生7名)、トライやるウィーク(4中学校10名、親和中学校17名) 入園希望親子・一時保育利用希望親子等見学者多数 就職希望者見学7名		
行事	進級式、入園式、礼拝(毎週水曜日合同礼拝、イースター、ペンテコステ、花の日、収穫感謝、クリスマス)・健康診断(内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査)・同園会(2回)・七夕のつどい・プールあそび・お泊り保育・タベのつどい・ぶどう狩り・グランパママのつどい・運動会・芋ほり・ハロウィン・生活発表会・クラス懇談会・卒園式・園外活動・クッキング活動 他		
取得資格			

施設	オリンピック神戸北保育園	報告者	中久木 康弘
事業目標	1. 健全財政の安定化 2. 保育所保育指針改定への対応 3. 一人ひとりを大切にする保育の更なる充実		
総括	<p>平成29年度の保育所保育指針の改定により、保育所保育においても子どもが安心・安定した生活が送れるようにする「養護」とともに、人格形成の基礎を培う「教育」を一体的に行うことが強調されています。私どもは3年前からそのことに取り組み、キリスト教保育を基盤として、子どもの情緒を安定させ、子どもの主体を大切にする保育を進めてきました。子ども自身が興味を持ち、自らつかもうとする気持ちを受け止め、環境を構成し援助するという役割が果たせてきたのではないかと考えている。財政面については、事業収支差が2015年度3,187万円、2016年度2,443万円、2017年度2,285万円、2018年度2,188万円と4年間で収支差は減ったが、4年間で職員の処遇を大幅に改善してきた中では、まずまずであった。</p>		
事業評価	<p>1. 健全財政の安定化</p> <p>当初予算収入15,100万円、支出13,820万円、収支差1,280万円で補正後収入16,850万円 支出14,950万円、収支差1,900万円となり、最終実算が収入17,000万円、支出14,811万円 収支差2,189万円となり補正予算収支差を289万円上回ることができた。</p> <p>2. 保育所保育指針改定への対応(乳児保育・幼児教育の充実、健康・安全の見直し、地域と連携した子育て支援、職員の資質・専門性の向上):個々の職員にとって望ましい研修の受講と内部勉強会の充実。 子育て支援事業を昨年度の内容を継承するとともに、リミック等の外部講師の回数を増やし充実させた。</p> <p>3. 一人ひとりを大切にする保育のさらなる充実</p> <p>保育の充実のため、保育士のスキルアップ研修も当然であるが、子どもが遊びこめる環境づくりのために子どもが興味をもっている遊びに応じた、おもちゃや素材などを時期時期にあわせて整える等工夫をこらした。</p>		
研修	<p>[内部]新入職員研修・新入職員OJT・危機管理研修・人権研修・キリスト教保育について</p> <p>[外部] 社会福祉の改正について・児童相談所と保育園の連携・新制度施行の現状 クレーム対応・保健師と保育園との連携・専門性のある保育士講座・特定給食施設研修会・食育フェア 障がい児保育・保育内容研修会・子どもの主体を大切にする保育研修・キリスト教保育</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>[実習] 親和女子大学(2)</p> <p>[ボランティア] 福祉体験学習(ワークキャンプ) 北神戸中学校(10) トライやる・ウィーク 北神戸中学校(5)</p>		
行事	<p>入園式・進級式・お誕生会・イースター礼拝・家族の日礼拝・花の日礼拝・お泊りキャンプ 乳幼児保育参観・敬老の日の集い・運動会・ブドウ狩り・保育園バザー・子育て支援センター体験 保育・収穫感謝祭(ハロウィン)・クリスマス会・お餅つき・私保連よいこの集い・大きくなったよの集い</p>		
取得資格	社会福祉施設施設長資格取得(副園長)		

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1. 総合的な福祉活動の展開 2. 財政基盤の確立 3. 光朔会と地域との架け橋を担い、理念に基づいた実践と新たなチャレンジ 4. 小規模多機能ケアの確立 5. 人材育成による資質の向上		
総括			
<p>オリンピア神戸西も多くの方の祈りと支えにより9年目を終えることが出来た。評価出来る点としては、人材確保が厳しい昨今、地域との独自の繋がりを生かし、リファラル採用でスタッフ増員に積極的に取り組むことが出来た。その取り組みから、法人内の他施設への応援や呉の県外事業再開への一部を担えた。逆に苦戦を強いられ、今後、改善していくべき点としては、スクラップ&amp;ビルドによる強固な事業所として復活であった。前年度2部門が終了1部門が合併という状況下で、体制の立て直しと業務見直しを余儀なくされたが、芳しい成績を残すことが出来なかった。但し、その沢山のチャレンジと結果を求められる過程において、新たな職員採用のルートと専門学校の実習課程の受け入れを得ることが出来、次年度にリベンジを果たすべく、更なるチャレンジを続けていきたい。</p>			
事業評価			
<p>1. 総合的な福祉活動の展開: 特別養護老人ホームの入所部門、小規模多機能ホームの通所部門、居宅介護支援事業所の在宅部門で連携をとりつつ、今まで積み重ねてきた地域との関係を生かし、高齢者の介護相談の拠点を担いつつ、高齢者料理教室や親子料理教室、自治会との防災訓練からクリーン作戦(大掃除)まで、積極的な活動を実施してきた。特養の年間稼働率は99.5%。また、法人の他施設へ2名も職員を送り出した。</p> <p>2. 財政基盤の確立: 昨年度の△11,861(千円)に対して、1,789(千円)と数字は回復したが、経年劣化による建物や備品修繕等の支出増により、各部門とも苦戦を強いられる一年となったが、次年度に向けて着実な備えが出来た。</p> <p>3. 光朔会と地域との架け橋を担い、理念に基づいた実践と新たなチャレンジ: 県外事業の再開や地域の公民館への出展や講師派遣による貢献を継続している。</p> <p>4. 小規模多機能ケアの確立: 利用者おひとりお一人に対して施設ケアで完結するのではなく、馴染みの環境・住み慣れた地域の中での生活継続支援を行うことが出来た。</p> <p>5. 人材育成による資質の向上: 法人内の他施設へ応援要員として職員を送ることが出来た。</p>			
研修	<p>[内部] 新入職員トレーニング合宿・新入職員研修・新入職員OJT・若手リーダー育成研修 高齢者虐待防止・身体拘束撤廃研修</p> <p>[外部] 介護支援専門員従事者研修・喀痰・吸引研修・栄養士会研修・介護士会研修・相談員会 研修・LD理解のための基礎と実践講座</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>兵庫県立明石西高等学校 ボランティア同好会(3)・神戸須磨の浦女子高等学校(3)・神戸市立玉津中学校(3)・神戸市立高津橋小学校(4)・神戸栄光教会(3)・明石聖マリア・マグダレン教会(6) 傾聴ボラテンフラワー(10)・神戸邦楽クラブ(6)・園芸倶楽部(6)・たまみ会(3)・神戸市社会福祉協議会ワークキャンプ(3)・牧羊幼稚園の園児との交流会(30)・フットケア(1)・野菜収穫体験(6)</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・花見・音楽療法教室・BBQ・健康野菜市・母の日クッキング・父の日プレゼント・音楽教室コンサート・ご家族懇談会・ドライブ・お茶会・映画鑑賞・美術館の芸術鑑賞・玉津南公民館給食会・お話しべちゃえ・高齢者料理教室・ふれあい祭り 健康チェックコーナー・クリーン作戦・防災訓練・盆踊り大会・利用者の希望を実現 温泉旅行・城崎・どうぶつ王国・須磨水族館 他</p>		
取得資格	介護支援専門員(1)、小規模多機能・計画作成担当者(1)、社会福祉士(1)		

## 事業報告

2018年度

施設	コリンピア神戸西	部門	小規模多機能	報告者	平山 陽三
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフの確保と資質向上 4. 地域の拠点作り				
事業評価					
<p>1. その人らしい暮らしの実現:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援する事に力を入れてきた。今年度は訪問に力を入れ利用者・家族の希望される生活の実現を目指した。今年も年間を通して人材不足が続き、大勢での外出へはあまり行けなかったが、利用者の希望に応じて、近隣の公園までお散歩に出掛けたり、外食やお茶へ行ったり、理美容の付き添い、お出掛けの送迎・付き添い等、受診の付き添い、買い物付き添い等、その人らしい暮らしの実現の支援を積極的に取り組んだ。</p> <p>2. 財政基盤の確立:登録28名からの好スタートであったが、夏頃から利用終了が続き利用数が落ち。最終的には26名で終えた。年間収入82,670(千円)、予算に対し、101.6%達成率で、次年度に繋げていきたい。</p> <p>3. スタッフの確保と資質向上:夏に正社員、年度末にケアマネジャーの退職となり、スタッフの確保に追われた。そんな中、研修等を定期的にしっかり行きスタッフの資質向上に努めることができた。</p> <p>4. 地域の拠点作り:音楽教室やヨガ教室、野菜市等の一般参加型プログラムや体験利用や緊急宿泊を実施し、高齢者が気軽に足を運べる環境と困った時に寄り添える環境を準備し、拠点を担えるようにチャレンジしている。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2018年度

施設	オリンピア神戸西	部門	特養	報告者	櫻井 敬介
事業目標	1. オリンピアの理念の遵守 2. 地域共生 3. 人材育成とスタッフ定着率向上を図る 4. 健全な財政基盤の確立				
事業評価					
<p>1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える:オリンピアの理念のもと、入居者の方と生活を共にすることで入居者皆様の気持ちや要望、体調の変化等に対して、気付き、寄り添うことができるようになってきたと思われる。入居者のご家族より感謝の言葉を頂戴したこともあった。オリンピアのケアがユニットに浸透し、入居者、ご家族の皆様に伝わりつつあることを実感している。</p> <p>2. 地域共生:特養入居者や職員が地域の行事に参加する機会は多く、また、積極的にボランティア受け入れを行っている。その結果、地域との相互交流も定着し、地域の一員として受け入れられていると感じている。</p> <p>3. 人材育成とスタッフの定着を図る:介護福祉士所持者や喀痰吸引研修修了者が増えてきている。また、毎月、委員会や勉強会を行うことで職員の意識は高まっている。今後もスタッフの定着、質の向上に尽力する。</p> <p>4. 健全な財政基盤の確立:今年度の収益は予算に対してプラス1.0ポイントと達成することができた。また、年間稼働率99.5%と2年連続高水準の稼働率を記録できたことは評価できる。活動費用も前年度より抑えることができた。健全な運営が行えていると思われる。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック明石	部門	介護支援事業所	報告者	富松 晃子
事業目標	1. 地域の相談窓口としての役割を担う 2. 居宅支援を他の部署と連携し行う 3. 財政の安定 4. 人材育成と資質の向上				
事業評価	<p>1. 地域の相談窓口としての役割を担う:4月から神戸西居宅と合併に伴い相談の受け入れ件数増加と各地区の支援センター等への営業の効果もあり、相談窓口としての問い合わせや様々な相談に対し迅速な対応が行えた。</p> <p>2. 居宅支援を他の部署と連携し行う:各地区の支援センターをはじめ、各医療機関・地域の方と関わりを持ち、法人内の横の繋がりを活かしながら調整を来ない支援することが出来た。</p> <p>3. 財政の安定:常勤3名の職員配置で各職員に稼働率のばらつきがあり収入を思うようには伸ばすことができなかったが、後半は安定した稼働率を確保でき、支出を極力控える努力した。</p> <p>4. 人材育成と資質の向上:積極的に研修会に参加し、居宅介護支援専門員としても質の向上を目指して活動できた。法人の理念である「ノーマライゼーション」「パーソンセンタード・ケア」に基づいた支援を実践した。職員同士が情報共有しながら、適切な判断行動が出来るように話し合い支援出来る体制が取れるようになってきた。今後は職員間の協調性を伸ばしていきたい。</p>				



施設	オリンピック都児童館	報告者	館長 森下 洋子
事業目標	1. 児童の健全育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ) 4. 地域への貢献 5. 職員の資質の向上		
総括			
<p>オリンピックの理念を軸とした行動を全職員がとれるように、毎日全員で確認した。基本を大切にすることが利用者との信頼関係に繋がると再度確信した。</p> <p>児童館行事では、一般来館児童だけではなく、放課後児童クラブの児童(児童館・コーナー)の参加が増えてきた。地域の方に学ぶプログラムも子どもたちにとって楽しみとなってきたことは良かった。</p> <p>コミュニティ事業では、地域の方の協力が大きかった。夏まつりや作品展など大いに助けられた。</p> <p>職員間の情報の共有、報・連・相については子どもたちのためだけでなく、スムーズに仕事を進めるためにまた、保護者の信頼を得るためにいかに大事かということを伝え続けた。</p>			
事業評価			
<p>1. 行事プログラムに関しては、異年齢児や地域の方と交流できるよう配慮し、集団モラルを学べるように職員の共通意識のもと、遊びの提供ができた。また、集団の中のそれぞれの「個」を大切にできたと思う。</p> <p>2. 親子館事業の各プログラムを通して、母親の仲間づくり、居場所づくりに配慮し、子育ての悩みを抱え込まないように母親の心に寄り添うようにした。</p> <p>3. 保護者が安心できるよう配慮し、規律を守る大切さに目を向けた支援に努めた。また、児童館行事への参加を通して色々な児童と交流する中でも、協力・寛容ということを意識づけた。更に学年に応じた自立につなげたい。</p> <p>4. 地域の方が楽しめるよう、年間を通してプログラムを実施し、利用しやすい場の提供をすることができた。また、子育てコミュニティ事業を通して地域の方と親子や児童など異世代間交流ができるプログラムを提供した。</p> <p>5. 日々の活動を通して気づきや、振り返りを大切にできた。ひとりひとりがこれでよしと満足することなく次年度更なる成長ができるようにする。職員間の人間関係においても配慮が必要と思うことがあったが改善できた。</p>			
研修	理事長研修・コーナー長研修・指導員研修・放課後児童クラブ支援員研修 キッズサポートスタッフ研修・専門相談研修 防犯対策職員研修・火災訓練事前職員研修・防災職員研修・感染症対策職員研修		
見学・実習 ボランティア	トライやるウィーク(中学生4名) ワークキャンプ(高校生4名)		
行事	すこやかクラブ・なかよしプログラム・なかよしひろば(赤ちゃんタイム・1歳児タイム・ママのリフレッシュタイム 子育てママのティータイム・ママのホットタイム)・学童お誕生日会・学童合同行事 月行事(お菓子作り 工作など)・灘区児童館合同行事(2回)・子どもフェスタ・集中学習会・コミュニティ事業 (夏まつり・卓球大会・敬老の集い・都作品展・餅つきと昔遊び・ひなまつり会・地域交流輪投げ大会)		
取得資格			

## 事業報告

2018年度

施設	オリンピック岩屋	部門	就労継続支援B型	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 施設外就労支援 2. 共同生活援助(サテライト制度の導入) 3. 生活介護の開所				
事業評価					
<p>1. 施設外就労支援:清掃業務に取り組み、利用者の就労意欲に繋がっている。ただ、利用者ひとりひとりの作業能力にあった支援の確立ができていないので改善に努める。事業所外作業として地域の神社の清掃なども継続して行っていることをステップアップの場として活用し、社会とのコミュニケーションを踏み出すことが出来た。地域の方から無償で提供していただいている菜園場で利用者と共に形を成し野菜の収穫まで行うことが出来た。これも現在継続している丹波篠山等での農作業に体力的にいけない利用者のステップアップの場として活用する事が出来、大きなアピールポイントとして発信していける強みとなった。利用者の取り組みの選択肢が増えたことをより良い支援に繋げたい。</p> <p>2. 共同生活援助:長峰の管轄となるが、活用した岩屋の利用者に対して明確な支援の確立に至らなかった。</p> <p>3. 生活介護の開所:住吉東の管轄として、それに伴う人材の確保と育成には部門として講習や研修へあまり参加できなかった。支援の向上に人材の育成に注力する必要がある。体制の変化がある中で既存のスタッフが助け合うことが出来たことは、新たな自信として前進していく所存である。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2018年度

施設	オリンピック住吉	部門	就労継続支援B型	報告者	尾上 忠志
事業目標	1. 利用者支援の向上 2. 新規メンバーの獲得 3. 法人内連携による作業強化 4. 地域のネットワーク構築				
事業評価					
<p>1. 利用者支援の向上:長期欠席者を除く全利用者の個別支援計画を作成し、職員間で共有した。また2月27日に行われた実地指導でも確認を受けた。</p> <p>2. 新規メンバーの獲得:昨年度末定員20名に対し17名の登録だったが、2019年3月現在22名の登録となり、目標としていた定員越えを達成できた。出席率も向上し、支援費収入に関しては来年度に向けて布石を作ることが出来たので、さらなる増収を目指して行く。</p> <p>3. 法人内連携による作業強化:2017年度より行っていた清掃作業はオリンピック岩屋が途中で中止した分も引き受け、相互に補い合ってきた。農作業や販売会は障害部門各施設それぞれの繋がりを有効に活用し、メンバーの就労意欲向上に繋げている。</p> <p>4. 地域のネットワーク構築:東灘区のごと部会、マーケット部会、呉田サポートネット会議に継続的に参加し、地域の動向を確認している。それにより御影クラッセでのまんまるケっつい販売会や東灘区役所前で行われるCS神戸販売会に参加し、収益を上げるとともにメンバーの地域貢献にも寄与している。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2018年度

施設	オリンピア長峰	部門	障害者共同生活援助	報告者	尾上 忠志
事業目標	1. サテライト制度の導入 2. 短期体験利用の開始 3. 職員新体制の構築				
事業評価					
<p>1. サテライト制度の導入:入居を前提とした体験利用をしていただいた方が、入居に繋がらなかったため2018年4月(実際に神戸市に提出したのは8月)サテライト制度を申請したが、2019年3月現在認可が下りていない。先行して支援を開始していたが、このままでは来年度中のサテライト部門の閉鎖も視野に考えていかねばならず、苦しい経営を強いられている。</p> <p>2. 短期体験利用の開始:当初から短期入所ではなく共同生活援助の体験利用という位置づけでスタートしたが、短期入所とほぼ同じことをしているにも関わらず、単位数が低い形となっていた。5部屋満室となってからは体験利用はなかったが、来年度以降は短期入所体験利用という形で申請し、支援にあたっていければと考えられている。</p> <p>3. 職員新体制の構築:サテライト制度のため非常勤職員を1名雇用している。出勤時間などにより、なかなか本体との連携が難航している。1.で記載した通りサテライト制度の閉鎖も視野に入れつつ、これからの支援の方法を模索していく。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2018年度

施設	オリンピア住吉東	部門	障害者生活介護	報告者	廣木 昌幸
事業目標	1. 新規利用者の獲得 2. 利用者支援の向上 3. 法人内での支援体制の連携と強化 4. 地域・福祉事業所とのネットワークの構築				
事業評価					
<p>1. 新規利用者の獲得:当初の開所予定日が様々な事情でずれ込み、2019年1月になったことから特別支援学校の2019年度卒業生の利用を促す機会を逃してしまっていた。そのため、生活介護を必要とする地域の方々を掘り起こすべく、元支援学校生の保護者のネットワークを使ったチラシの配布やオリンピア住吉東主催による講演会などの広報活動を行い、認知度を高める。そのことで3月までに2名と利用契約。</p> <p>2. 利用者支援の向上:日々の観察と保護者やご家族とのカンファレンスを通じて個別支援計画を作成。感覚統合などを踏まえたケアを行い、身体を整えることで、引きこもりだった利用者が休まず来所されるようになった。</p> <p>3. 法人内での支援体制の連携の強化:オリンピア岩屋・住吉と連携をとることで障害者部門全体の利用者数を向上させていくために管理者同士で定期的にミーティングを行っている。</p> <p>4. 地域・福祉事業所とのネットワークの構築:地域の動向を把握できるように、障害のある子どもを持つ保護者のネットワークを生かして認知度を向上させる。同時に東灘区内の他の事業所へスタッフと共に施設見学をさせて頂き、交流を図った。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	サービス付き高齢者向け住宅オリンピア鶴甲	報告者	施設長 前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 各種講演会やイベント開催 4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す		
総括			
<p>サービス付き高齢者向け住宅部門では、入退居の入れ替わりが激しく、特に長くご入居頂いていた方のADL低下が顕著に現れた1年だった。ご逝去や入院が多く、空き室をすぐに埋めることが難しい状況が生まれていた。</p> <p>カフェや外食イベントは好評だったので、今後も継続して実施していきたい。</p> <p>デイサービス部門では、サービス付き高齢者向け住宅の利用者が上記の様にに入れ替わりがあったり、介護度が上がっていった結果、単位数の関係でサービスを削る例も多かった。外部利用者の池入れ枠を広げている。</p> <p>ヘルパー部門では、サービス付き高齢者向け住宅内の利用者の状態悪化の為、イレギュラー的にケアに入ることも多かった。</p>			
事業評価			
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供: オリンピアがこれまで築いてきた地域や教会、関係機関との良好な関係を継承し、オリンピアの理念に基づいたサービス提供をスタッフ一同が出来る様に心掛けて職務にあたった。連携していく意識が以前より根付いてきた様に思われる。</p> <p>2. 財政基盤の確立: サービス付き高齢者向け住宅では常に空き室がある状況になってしまった。その影響が他部門のデイ・ヘルパーにも響く形となった。</p> <p>3. 地域交流、イベント開催: カフェにおいては入居者のお友達や家族様も利用して下さっている。外食イベントは皆様楽しみにされており、楽しんで頂く様に努めた。</p> <p>4. 安全で安心できる住宅環境を目指す: 入居者の方に「オリンピア鶴甲を利用して良かった」と思って頂ける様に、日々環境整備に取り組んだ。</p>			
研修	[内部]理事長研修(虐待防止)		
見学・実習 ボランティア	トライやるウィーク受け入れ		
行事	運営懇談会、音楽鑑賞会、外食イベント 毎週土日カフェオープン		
取得資格			

## 事業報告

2018年度

施設	オリンピア鶴甲	部門	住宅部門	報告者	前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す				
事業評価					
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:入居者の方がこれまで自宅で送って来られた生活と変わらない生活様式を継続出来る様に、お一人おひとりに寄り添ったサービス提供を心掛けてケアにあたった。個別のニーズに応じてきた結果、「オリンピア鶴甲に来て良かった」とのお声を多く頂くことが出来た。</p> <p>2. 財政基盤の確立:常時満室を目指しながら、空き室が常にある状況となってしまった。長く入居頂いている方のADL低下により、ケアの増加には対応出来たが、入院やご逝去される方が多かった。その中で、新規入居者や待機者の獲得が難しかった。</p> <p>3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:快適な生活環境を整えることに力を注ぎ、お一人おひとりの要望に応じて細かな相談に乗ったり、話相手としてしっかりお話を傾聴してきた。また、日常の清掃業務に加えて、定期的な清掃、危険箇所が無い様に安全に配慮して建物の維持管理を行った。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2018年度

施設	オリンピア鶴甲	部門	ホームヘルプ	報告者	下地 正樹
事業目標	1.オリンピアのケアの追求 2.人財確保育成 3. 財政基盤の確立 4. 広報活動の強化				
事業評価					
<p>1. オリンピアのケアの追求:余命宣告があった方へのケアを実施し、その時々利用者様の思いに寄り添い今できること、今しか出来ない事をヘルパー全員で考え生み出すことで、最後までオリンピア鶴甲で過ごしたいを実現し、それぞれが一つ上のケアを実践できた。又、娘様の余命宣告を受け、出来る事や普段の生活の中で、最後まで何をしていきたいかをくみ取ることも経験、また見送られたあとの前へ向いて生きていくことの大切さを経験した。</p> <p>2. 人財確保育成:ハローワークから紹介があったものの継続雇用にはいたらなかった。</p> <p>3. 財政基盤の確立:保険外収入に対応すべく、サ高住内の方のご要望に応え収入増加を図った。継続して、サービスが出来る様、ヘルパー内の意識改革も進んでいる。現在、早出や残業で不足分をカバーしている。ヘルパーの増員に努める。</p> <p>4. 広報活動の強化:灘区地域連絡会や地域ケア会議等に参加したり、居宅・あんしんすこやかセンターにオリンピア鶴甲としてサ高住・DS・HHのPRをし数件の問い合わせがあった。今後も継続していく。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア鶴甲	部門	デイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1.財政基盤の確立 2.サービスの質の向上 3.人材の確保・育成				
事業評価					
<p>1. 財政基盤の確立:利用者数を増やす事に向けて取り組んできたが、サービス付き高齢者向け住宅内の利用者の入れ替わりにより、数字を伸ばすことが出来なかった。また、単位数の関係でサービス日数、時間を削るケースも多く、送迎体制の整備によって、外部利用者の受け入れ枠を増やした。</p> <p>2. サービスの質の向上:スタッフ一人ひとりがオリンピアの理念をしっかりと理解してサービス提供にあたる様に取りこんで来た。地容赦様からの様々な要望に丁寧に対応することで、オリンピアにたいする信頼を深めて頂けた様に思われる。</p> <p>3. 人材の確保・育成:利用者様の思いに寄り添ったサービス提供が出来る様に、業務を遂行しながら成長出来ることを目標として人材の育成にあたった。利用者様にこれからもより一層楽しんで頂ける様に、チーム全体として成長出来る環境を整える。</p>					

施設	グループホームオリンピア篠原	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 「認知症ケア」の確立 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 人材の育成		
総括	<p>オリンピア篠原は4年目を迎え、しっかりと地域に根ざしたホームとなってきた。生活の場として住み慣れた地域で、その人らしい暮らしが送れる場として、高齢者介護の拠点となっている。地域の行事に積極的に参加し、地域の方々の介護の相談窓口となっている。オリンピア灘や鶴甲と連携を図り、灘区の認知症ケアの拠点となっている。第三者評価では、4年連続で来られた評価機関の社長から「オリンピア篠原は4年でグループホームとして理念に基づいたケアを実践されていますね。」と非常に高い評価をいただいた。オリンピア篠原は次年度以降も地域に根ざしたホームとして、入居者の皆様と地域に出て行き、地域の方々にも気軽に来ていただける環境を整え、地域の方々と共に生きていく。</p>		
事業評価	<p>1. 「認知症ケア」の確立; 「オリンピアの理念・3つの約束」に基づいたケアの実践に努め、オリンピアの認知症ケアをスタッフ一人ひとりが意識し、入居者お一人おひとりの「その人らしい」暮らしのお手伝いできた。</p> <p>2. 地域密着の浸透: 地域の方々から案内頂いた行事に今年も積極的に参加した1年であった。また、地域住民や、元入居者のご家族からの紹介で、入居に関するご相談や見学を受けることが度々あり、それが入居に繋がっている。</p> <p>3. 財政基盤の確立: 入院者がでたり、オリンピア篠原で最期を迎えられたり、稼働率を下げってしまう要因が多く、収入を下げってしまったが、入居待機者を常時2～3名確保し、法人内の施設で待つて頂くなど、法人内の関係、情報交換を構築する機会となった。</p> <p>4. 人材の育成: 年間を通じて派遣職員が多かったが、年度末にはその派遣職員は0名となり、そのうち2名はオリンピアの職員に切り替えることを希望され、新年度から直接雇用の職員となった。</p>		
研修	<p>[内部] 新入職員(トレーニング合宿・研修・OJT)・認知症ケア・感染症対策・高齢者虐待防止 ・身体拘束防止・パーソンセンタードケア・成年後見</p> <p>[外部] ・認知症介護実践者研修・市民救命士・キャリアアップ研修・神戸市コンプライアンス研修 ・「生と死を考える会」講演会・発達障害理解のための基礎と実践講座</p>		
見学・実習	<p>[見学] ・入居希望見学・居宅介護支援事業所・ハローワーク職員</p> <p>[実習] ・</p>		
ボランティア	<p>[ボランティア] ・厳島神社だんじり・都賀川を守ろう会・お歌の会・オリンピア都こども園交流会 ・都児童館交流会</p>		
行事	<p>・誕生日会・運営推進会議・ご家族懇親会・ご家族懇談会・第三者評価・消防設備点検、避難訓練 ・花見・イースター・母の日・父の日・世界自閉症啓発デー・灘区だんじり祭・さくら祭り・淡路島旅行 ・敬老のお祝い・クリスマスリース作り教室・クリスマス会・チェロコンサート・ページェント・新年会 ・厳島神社節分祭・雛祭り・オリンピア都こども園交流会・都児童館交流会</p>		
取得資格	介護福祉士(2)・市民救命士(3)		